

「知の拠点」とは

次世代モノづくり技術の 創造・発信の拠点

産・学・行政の連携した「愛知モデル」として、最先端の研究開発環境を備えた拠点を整備。モノづくりのイノベーションの基盤となるナノテクノロジーを核に、IT、バイオも融合した研究プロジェクトを展開し、革新的な製造システム、付加価値の高い製品・素材につながる技術の創造を目指します。



「知の拠点」イメージ図

あいち産業科学技術総合センター

- 中小企業の総合的な支援機関である「産業技術研究所」と、「知の拠点」の先導的中核施設を統合して誕生（平成24年1月）。
- 「知の拠点」の本部では、
 - ・大学の研究シーズを企業の事業化につなげる産・学・行政の共同研究プロジェクトを実施します。
 - ・中堅・中小企業に対して、製品化・事業化に向けた研究開発から試作まで支援します。
 - ・高度かつ汎用的な計測機器による分析・評価、ソリューション機能により企業の研究開発、製品開発を支援します。
- 県内6ヶ所に配置した各技術センターは、それぞれの分野において、技術相談、依頼試験、研究開発による地域企業支援を実施するとともに、「知の拠点」の研究成果の普及を図ります。

シンクロトロン光 利用施設

- ナノテクノロジー分野において電子顕微鏡とともに注目されるシンクロトロン光利用施設。
- 産業利用を主目的にした地域共同利用施設として平成24年度中のオープンに向けて準備を進めています。
- 地域の産・学・行政の連携・協力のもと、公益財団法人科学技術交流財団が整備・運営（一部は独立行政法人科学技術振興機構が整備）します。

今後の展開

- 国等の先端研究・実験施設や成果を事業化につなげるインキュベーション施設などの立地、集積を図り、中部地域全体の研究開発の拠点づくりを目指します。
- 研究開発を促進し、企業の製品化・事業化を目指します。

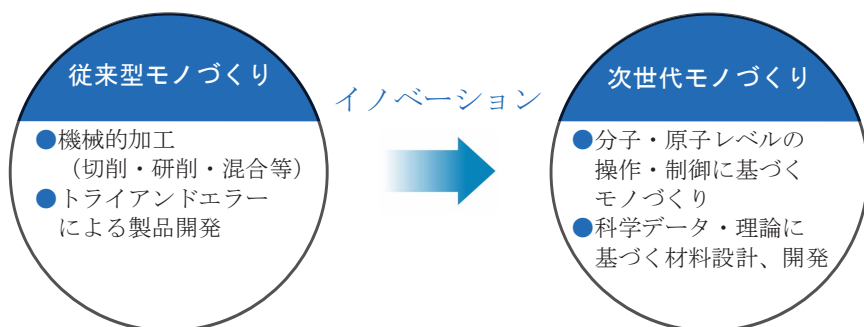
背景

国際的な経済競争が激化する中、経済のグローバル化による海外生産比率の拡大や、人口減少社会、高齢社会の到来による産業の担い手不足の問題など、将来の本県の生産活力の相対的な低下が危惧されています。

そうした中で、この地域が今後も世界をリードするモノづくり拠点として、その活力を維持・発展させていくためには、モノづくりを支える科学技術＝「知」の絶え間のない革新が必要です。

そして、それを成し遂げるには、大学等の研究成果をモノづくりにつなげる「橋渡し」＝「産・学・行政連携による共同研究開発」が不可欠であり、それを実現するソフト・ハードにおけるインフラづくりが重要です。

モノづくりのイノベーション（今を越えるモノづくりの鍵はナノテクノロジー）



これまでのモノづくりは、ミクロン単位（千分の1ミリ）の技術を達成してきました。しかし、これからのモノづくり、つまり次世代モノづくりにおいては、従来技術の限界を超える、ナノレベル（100万分の1ミリ）での技術革新が求められています。今後のモノづくり産業のイノベーションを支える基盤となる技術は、ナノテクノロジーです。「知の拠点」では、このナノテクノロジーを核に、IT技術、バイオ技術を融合した研究プロジェクトを、産・学・行政が共同して展開していきます。

お問い合わせ先・アクセス

〒470-0356 豊田市八草町秋合1267番1

TEL:0561-76-8301 FAX:0561-76-8304

HP:<http://www.aichi-inst.jp/acist/>

E-mail:acist@pref.aichi.lg.jp

[鉄道]名古屋(地下鉄東山線)

→藤が丘(東部丘陵線リニモ)

→陶磁資料館南(約50分)

[道路]名古屋瀬戸道路長久手ICから東へ約3km

猿投グリーンロード八草ICから西へ約800m

